

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

1. 提案の要旨および目標

日本においてバスケットボールは、野球が1872年以降全国的に広まったのに対して、30年以上遅れた1909年以降に教えられていったと言われている¹。今日でも、野球の世界大会で日本代表が優勝するなどの陰で、バスケットボール日本代表は、オリンピックで言えば1976年の第21回モントリオール大会以降、参加から遠ざかっている状況にある。

その現状を打破すべく、2007年に日本バスケットボールリーグ(JBL)が設立され、世界で戦える日本代表選手の強化はもちろん、広くバスケットボールの競技力向上・普及活動を行うようになった²。その中のチームの一つが、宇都宮市体育館をホームコートとしているリンク栃木ブレックス(以下「ブレックス」)である。ブレックスは、他の企業のクラブチームとは違い、「地域のプロチーム」として活躍している。2009年度シーズンにおいて、JBL1部へ昇格後わずか2年目でリーグ優勝を果たすなど、ブレックスは急成長を続けているチームである。そんなブレックスに熱心なファンも多く、遠方で行われるアウェーの試合にも、応援ツアーとしてバスで駆けつけるほどだ。

しかしながら、そのブレックスのホームコートである市体育館は、「ブレックスアリーナ宇都宮」と名づけられるほど愛されていて、熱心なブレックスファンも多いにも関わらず、その存在をあまり感じる事ができないほど周辺は閑散としている。また、駅東公園やうつのみや百景のイチョウ並木など近くに資源はあるものの、統一性がなくプロスポーツと市民の距離が遠くに感じられる。

そこで本提案では、市体育館周辺に一体感を持たせるようなホームコートづくりを行い、周辺地域をより魅力的にすることを目指す。具体的には、市体育館周辺地域を、気軽にスポーツに触れられる、プロスポーツが身近に感じられる、バスケットボールでわくわくできる「ブレックス(バスケットボール)の聖地」として盛り上げることで、「プロスポーツと市民が融合するまち」である宇都宮を盛り上げることを狙いとする。そのために、行政、企業、市民がそれぞれ役割を持った施策事業を提案したい。

2. 宇都宮市体育館と周辺地域及び「リンク栃木ブレックス」の現状の分析と課題

1) 宇都宮市における市体育館と周辺地域及び「リンク栃木ブレックス」の現状

①市体育館とその周辺の現状

宇都宮市体育館は、2009年に宇都宮市の「施設愛称によるプロスポーツ応援事業」により「ブレックスアリーナ宇都宮」と名付けられた。これは、宇都宮市やブレックスが広報活動等で用いる愛称であり、地域住民の愛着を深めることや、宇都宮市とブレックスとの連携強化などを目的としている。また市体育館ではユニフォームの展示や、売上の一部をバスケットボール普及のために寄付することを目的としてブレックスが開発した自動販売機(愛称「バスケ自販機」)を設置するなどブレックスのアピールを行っている。さらに、選手達が練習する際は使用を優先し、試合会場として用いられる際は館内の土足やアルコール類

¹ 日本オリンピック連盟ホームページ 「バスケットボール」 <http://www.joc.or.jp/sports/basketball.html>
(閲覧日 2010年11月6日)

日本学生野球協会 ホームページ 「野球年表」 <http://www.student-baseball.or.jp/history/history.html>
(閲覧日 2010年11月6日)

² 日本バスケットボールリーグホームページ 「JBLについて」
<http://www.jbl.or.jp/jbl/> (閲覧日 2010年11月6日)

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

の販売を許可するなど、エンターテインメント性を重視し、ファンにとって魅力ある会場づくりに努めている。

写真1 ブレックスアリーナ宇都宮



写真2 バスケ自販機



出典：2010年11月1日撮影

これらに加えて、市体育館の周辺の商店や一般企業ではブレックスののぼり旗を設置しアピールを行っている。これはブレックスが無料でのぼり旗を配布し、それを設置した店舗はブレックスのホームページで協力店として店名が掲載されるというブレックスが行っている地域密着活動の一つである³。さらに試合会場として市体育館が使われる日には、近くのホームセンターが駐車場を無料で開放するなど周辺の商店や企業は協力的である。また、すぐ近くには宇都宮駅東公園や「うつのみや百景」に選定されているイチヨウ並木があり、市体育館を訪れた人にバスケット以外でも宇都宮の魅力を知ってもらうことができる。

②「リンク栃木ブレックス」の活動

ブレックスは2007年に設立されたプロバスケットボールチームであり、チームには元NBA選手の田臥勇太選手や日本初の高卒プロ契約選手の川村卓也選手などが所属しており、県内で試合が行われる際には県外からバスツアーで観戦に訪れるファンも多く、全国的な知名度も高い。

また、ブレックスは地域密着型のプロスポーツチームを目指しており、選手や専属チアリーダーの「BREXY」が小中学校を訪問する「キッズモチベーションプロジェクト」、バスケットボール普及のために県内の小中学校のバスケットチームやミニバスケットチームを巡回して指導する「D-PROJECT supported by LAWSON」、トップチームが県内の体育館で公開練習を行う「栃木銀行 presents ブレックスキャラバン」、栃木県バスケットボール協会と共同開催でブレックスの選手やトレーナーが県内のバスケットボール選手や指導員にプロのスキルを教える「バスケットボールクリニック」を開催、地域イベントにも選手や「BREXY」、マスコットの「ブレッキー」が参加するなど多様な地域密着活動を行っている⁴。また、チームだけでなく選手個人も積極的な地域密着活動を推し進めている。具体的な例を挙げると、ブレックスに所属している安斎竜三選手は、自身が出場したホームゲームで1勝につき車いす1台を県内の障害者・高齢者施設に贈る福祉プロジェクトを行っており、2010年10月には宇都宮市内の施設に車いす

³ のぼり旗を設置するためのポールの配布や店舗を写真、住所、電話番号付きでHPで掲載する際には有料。
リンク栃木ブレックス オフィシャルウェブサイト「のぼり旗プロジェクト」

<http://www.linktochigibrex.com/community/noboribata.html> (閲覧日 2010年11月1日)

⁴ リンク栃木ブレックス オフィシャルウェブサイト「地域密着活動について」

<http://www.linktochigibrex.com/community/index.html> (閲覧日 2010年11月1日)

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

を贈呈した⁵。こうした、選手自らも地域密着活動を行うチームづくりをすることでブレックスは、地域に根ざしたプロスポーツチームづくりを行っている。

こうしたことから宇都宮市は、プロスポーツチームであるブレックスに対して市体育館を提供するサポートなどを行っており、ブレックスも単に強いチームを目指しているのではなく、地域密着型のチームづくりのため市民との交流を率先している。よってブレックスに対する市民の認知度や関心は非常に高まっていると考えられる。

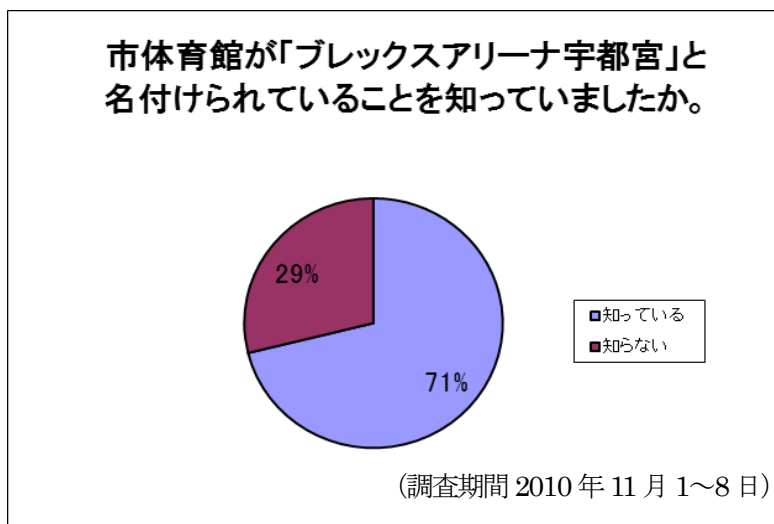
2) 市体育館と周辺地域及び「リンク栃木ブレックス」の課題

以上のような現状から宇都宮市内におけるブレックス関連の活動は行政、ブレックスともに十分に行っているように思われるが、重要な課題があると考えられる。

第一に市体育館についてである。市体育館は、ブレックスを観戦する目的の人々や施設を利用する一般市民にとっては「ブレックスアリーナ宇都宮」の認知度は高いが、市体育館を普段利用しない一般市民にとっては「ブレックスアリーナ宇都宮」の名前は十分に定着していないように思われる。

今回、市体育館の利用者がどの程度「ブレックスアリーナ宇都宮」の名前を知っているのか、アンケート調査を行ったところ、以下のような結果となった。

図 1. 「ブレックスアリーナ宇都宮」についてのアンケート調査結果 (回答数 52 名)



この結果から、市体育館利用者には比較的「ブレックスアリーナ宇都宮」という名前は浸透していると考えられる。したがって、市体育館を利用しない人々にいかんして「ブレックスアリーナ宇都宮」を知ってもらうかが課題となるだろう。

第二に、市体育館の周辺における「ブレックスアリーナ宇都宮」としての市体育館と、ブレックスをアピールする物が不足している点が挙げられる。日本一を経験したチームであり、図 2 で示すように観戦者数もトップであるブレックスは、宇都宮市のブランド力を向上するためには貴重な資源である。それにも関わらず、周辺の商店でブレックスののぼり旗を設置している店はごくわずかであり、アリーナに続く大通りにもフラッグなどは見受けられない。したがって、市体育館とその周辺が一体となって本拠地づくり

⁵ この活動にはチームスポンサーで福祉用品を扱う「ひびき」が協力している。

(下野新聞「SOON」 2010 年 10 月 22 日の記事より)

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/sports/brex/news/20101022/401007>

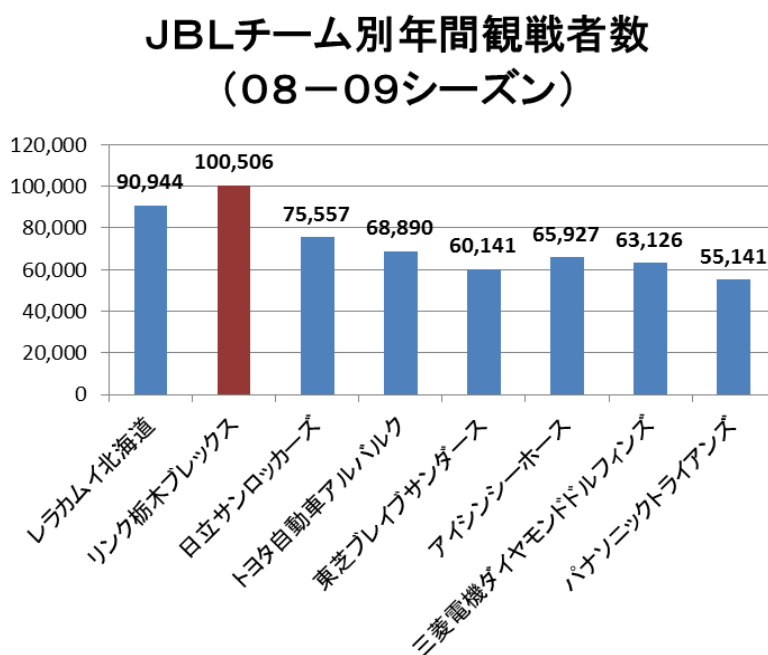
(閲覧日 2010 年 11 月 1 日)

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

を行う必要性がある。周辺には駅東公園のような人が集まる場所があることから、こうした場所を有効的に利用した提案を紹介したい。

図2. チーム別の年間観戦者数 (08-09 シーズン)



出典：リンク栃木ブレックス「JBL所属プロバスケットボールチーム リンク栃木ブレックス (Link Tochigi BLEX) チーム紹介及び活動 実績説明資料」より作成

3. 施策事業の提案～市育館および駅東公園周辺地域の「ブレックスの聖地」化～

1) ブレックスの魅力があふれる空間づくり

① 行政の役割

「プロスポーツと市民が融合するまち」として宇都宮を盛り上げるために、ブレックスをテーマとして市体育館周辺の環境をブレックスの聖地となりえるように整備していく必要がある。その提案と、その提案によってもたらされるだろう効果も共に示していきたい。初めに行政の役割として、市体育館と駅東公園の一体化を提案したい。私たちが提案する一体化とは、現在ばらばらに存在しているように見える両者に統一感を生み出し、ブレックスの聖地としての魅力を高めるということである。具体策として、第一に緑化整備が挙げられる。駅東公園には木々が多く、きちんと刈り込まれた緑豊かな印象がある。その緑は、今後も手入れをして存分に活かしていくべきである。一方、市体育館の正面玄関周辺にある木や植木は手入れにあまり工夫が感じられず、ひっそりと緑があるだけのような印象を与えかねない。まずはそれらの木々を丁寧に整え、緑豊かな自然の魅力いっぱいの宇都宮らしさを表現することが大切だ。そしてブレックスをテーマに緑化することで、より一体感のある魅力的な空間になるのではないだろうか。具体的には、公園や周辺の小道、市体育館一帯にブレックスのチームカラーである紺と黄色を用いたプランターを並べるなどである。公園内の花壇やプランターの花も、紺と黄色の花を基調として彩れば、ブレックスで盛り上げようとする熱い気持ちもアピールできるであろう。紺と黄色の花としては、春と夏の間はバーベナ、秋と冬はパンジーなどが育てやすく色も豊富だ。

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

写真3 体育館正面玄関の様子



出典： 2010年10月10日撮影

写真4 公園内花壇 施策後イメージ



2010年7月1日撮影

行政の役割として第二に、市体育館周辺を市民が集い、憩える場所として提供することが挙げられる。その一つに、「ストリートボール」の場を提供することが挙げられる。「ストリートボール」とは、屋外にあるバスケットコートで、1on1 や 3on3、5on5 などのルールでバスケットボールを行うことである。東京・代々木公園では、「ALLDAY」というストリートボールトーナメントを行っている。駅東公園にも、バスケットコートを置くスペースが十分にあると思われるので、たとえ豪華ではなくても、そういったコートやゴールなどの設置によって、今までバスケットボールをしたくてもする場所がなかった人々に、気軽にスポーツの機会を与えることができるのではないだろうか。またそこでのプレーヤーが増えれば、今度は市体育館で大々的な市民のバスケットボール大会を催すなどのイベントの開催にもつながることになるだろう。市民がいつでもスポーツに触れられる環境こそが、地域密着をモットーとするブレックスの聖地に必要なものである。市民が集い、憩える場所として二つ目に提供するのは、うつのみや百景にも選ばれているイチョウ並木を眺められるベンチやテーブルの増設である。現在もイチョウ並木の道にはベンチが置いてあるが6台ほどで、公園全体としてもひっそりと置かれているだけだ。バスケットボールと宇都宮市木であるイチョウが同時に楽しめる場所には、多くの人に立ち寄って足を止めてもらうためのベンチやテーブルは欠かせないのではないだろうか。

写真5 ALLDAYの様子



出典：ALLDAY ホームページより

写真6 うつのみや百景のイチョウ並木



出典： 2010年11月3日撮影

② 企業の役割

次に、企業の役割として、ブレックスをより一層アピールするための提案を行いたい。第一に、現在も行われているのぼり旗プロジェクトの促進や、横断幕、ポスター、アリーナの場所を示す看板の増設など

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

があげられる。さらに、周辺の通りの街灯に選手の顔や背番号が印刷されたフラッグを連ねて掲げることで、ブレックスというチームは知っているも選手の名前までは知らないという人々に、選手への愛着を持ってもらうことができるのではないだろうか。特にポスターはかかる費用が比較的少ないが、宣伝効果は大きいと考えられる。飲食店やコンビニなどの商店はもちろん、その他多くの建物や乗り物内に貼ることで、人々がブレックスを目にする機会を増やすことが可能になる。企業がこのようなアピール活動を行うに当たって、行政に求められるのはその支援である。例えば、以前からあるブレックスの田臥選手や川村選手の巨大横断幕を常に市体育館に掲げるなど、公的な施設や建物において積極的にブレックスの存在を多くの人々の目に触れるよう協力することが大切である。

③ 市民の役割

ブレックスをテーマとして市体育館周辺の環境をブレックスの聖地となりえるように整備していくために欠かせないのが、市民の協力である。ここでは、①行政の役割で提案したブレックスカラーの緑化活動に、市民が参加することを提案したい。現在、市体育館も駅東公園も木や植え込みはあるものの、花壇などはほとんどない。そこで、先ほども述べたようにブレックスのチームカラーである紺と黄色のプランターに、紺と黄色の花を基調として植えていく。また、花で「BREX」の文字を作ったりマスコットキャラクターのブレッキー(図1)を描いたりするのも面白そうである。現在、宇都宮市は「宇都宮市緑の基本計画⁶」として既に「地域の交流を広げる公園のあるまち」づくりを目標に掲げているため、先述の緑化活動は宇都宮市の目指すべき取り組みの一つと言えるのではないだろうか。それに向かって行政は、現在も行っているホームページや広報誌、ポスターでの積極的な市民への参加呼びかけを、より工夫をしていくことが大切である。

このような緑化活動を市民と選手が一緒になって行うことは地域密着をチームの理念として掲げているブレックスならではの取り組みとなりえるだろう。このように手作りで市体育館周辺の環境を良くしていくことで、市民一丸となってブレックス、あるいはスポーツを一緒に支えているという連帯感が生まれ、まちづくりの大きな原動力となるのだ。



図2 ブレッキー
出典：リンク栃木ブレックス
ホームページ

写真11 川村選手の横断幕
出典：下野新聞「SOON」
(2010年4月2日配信)



2) 足を運びやすい空間づくり

今まで述べてきたような空間づくりによって魅力的になった市体育館と周辺地域は、その活動の様子を情報として発信し、多くの人に知ってもらい、遊びに来てもらう事が大切だ。そのためには情報を獲得しやすくし、さらに足を運びやすくする工夫も行わなければならない。第一に、周辺の商店等の協力を得て、試合でブレックスが勝った日は100円引き、などのキャンペーンをしてもらう事を提案したい。具体的には、試合に勝利した日に周辺の飲食店に行くと、ドリンクが100円引きで飲めたり、デザートがサービス

⁶宇都宮市ホームページ 「緑の基本計画」

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/sumai/midorimachidukuri/midorinokihonkeikaku/index.html>
(閲覧日 2010年11月14日)

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

されたり、などといった具合である。周辺地域と協同で盛り上げることで、本提案の狙いである「統一感」や「一体感」をより生み出すことができる。また、人々が初めはキャンペーンや割引などに惹かれてやってくるのがきっかけでも、次第にブレックスを目当てにやってくるリピーターになりえるかもしれない。

第二に、これまで全ての内容を、情報として発信するためのメディアの役割が欠かせない。コンビニなど、人の出入りの多い店舗に『TOCHIGI スポーツ応援マガジン SPO COM』などのフリーペーパーを置く。また、宇都宮市ホームページで検索可能な市体育館情報を、より詳しく掲載することも提案したい。例えば、写真にカーソルを合わせるとその周辺の公園や並木道の風景も見ることができたり、緑化活動で植えた花やイチヨウの色づきなどを観察できたりする機能である。また、周辺地図の表示にも、キャンペーンをやっている店舗紹介や、のぼり旗プロジェクト加盟店のしるしを示したりすると、メディアに触れた切り口は違う人にも、その周辺で何が起きているのかを知ってもらえる。フリーペーパーやインターネットの情報では、栃木県内の他のプロスポーツとも関わり合いながら情報を発信できるので、スポーツのまちとして盛り上がる宇都宮に、興味を抱いてくれる人が増えると期待できる。

3) 事業遂行上の課題

「プロスポーツと市民が融合するまち」として宇都宮を盛り上げる本提案において、当然考えられる費用と現実性の課題がある。ストリートボールのコートは騒音被害や、若者の不健全な溜まり場となりかねないことから近隣住民の理解が必要であり、その点に配慮した整備が必要となる。それらを乗り越えたところで、コートを設置するには数百万円の費用が必要であり、課題は残る。しかしながら、緑化活動や足を運びたくする空間づくりなど、行政・企業・市民が一体となって行えば手作りのできるものも多く、費用に関しては工夫次第であると考えている。

また、この提案で掲げている「ブレックスの聖地化」というテーマに類似した、「リンク栃木ブレックスの練習施設を中心とした『総合スポーツ施設』と地域住民の『交流の場』を併せた、これまでにない新しいタイプの『コミュニティーセンター』」を建設計画中だと 2010 年 11 月 5 日に株式会社リンクスポーツエンターテインメントが発表した⁸。そこにはショップやクラブハウスを備え、地域住民がブレックスの練習風景をいつでも観られるようになるといい、まさにブレックスのシンボリックなコミュニティーセンターになるだろう。だが、このセンターは現段階ではあくまで練習用の施設であり、公式戦は今まで通りの施設で開催していく予定のようだ。それゆえに、私たちが提案する市体育館周辺の整備も恐らく無駄にはならず、ブレックスアリーナ宇都宮に公式試合に来る他のチームの選手からもうらやましがられるような、温かみのある手作りの本拠地づくりの提案として、現実性は保たれるだろう。

3. おわりに

今回、宇都宮市のまちづくりに関する調査を行うなかで、プロスポーツチームが地域に密着したチームになるためには幅広い活動を行わなくてはならないと感じた。また、ブレックスが地域密着活動を推進する上では行政の支援・市民の協力が必要であり、三者の協働を通じてプロスポーツによる市の発展は実現するだろう。

⁷ 宇都宮スポーツナビ

<http://www2.ucatv.ne.jp/~u-taibun.sea/shitaiikukan.htm> (閲覧日 2010 年 11 月 7 日)

⁸ リンク栃木ブレックス オフィシャルウェブサイト

<http://www.linktochigibrex.com/brexcc/index.html> (閲覧日 2010 年 11 月 7 日)

テーマ：プロスポーツと都市の可能性

宇都宮大学 松谷剛 佐々木真美

—参考資料—

宇都宮市ホームページ 「緑の基本計画」

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/sumai/midorimachidukuri/midorinokihonkeikaku/index.html>

(閲覧日 2010年11月14日)

宇都宮スポーツナビ <http://www2.ucatv.ne.jp/~u-taibun.sea/shitaiikukan.htm>

(閲覧日 2010年11月7日)

下野新聞「SOON」 2010年4月2日の記事より

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/sports/brex/news/20100402/303967>

(閲覧日 2010年11月15日)

下野新聞「SOON」 2010年10月22日の記事より

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/sports/brex/news/20101022/401007>

(閲覧日 2010年11月1日)

日本オリンピック連盟ホームページ 「バスケットボール」

<http://www.joc.or.jp/sports/basketball.html>

(閲覧日 2010年11月6日)

日本学生野球協会 ホームページ 「野球年表」 <http://www.student-baseball.or.jp/history/history.html>

(閲覧日 2010年11月6日)

日本バスケットボールリーグホームページ 「JBLについて」 <http://www.jbl.or.jp/jbl/>

(閲覧日 2010年11月6日)

リンク栃木ブレックス

「JBL所属プロバスケットボールチーム リンク栃木ブレックス (Link Tochigi BREX) チーム紹介及び活動 実績説明資料」

リンク栃木ブレックスオフィシャルネットショップ <http://www.brexshop.com/>

(閲覧日 2010年11月7日)

リンク栃木ブレックス オフィシャルウェブサイト

「BREX コミュニティーセンター (仮称) 建設計画」

<http://www.linktochigibrex.com/brexcc/index.html>

(閲覧日 2010年11月7日)

「地域密着活動について」

<http://www.linktochigibrex.com/community/index.html>

(閲覧日 2010年11月1日)

「のぼり旗プロジェクト」

<http://www.linktochigibrex.com/community/noboribata.htm>

(閲覧日 2010年11月7日)

ALLDAY ホームページ 「ABOUT ALLDAY」

http://www.alldaymag.com/about_allday.html

(閲覧日 2010年11月7日)